

平成26年度 事業報告書

事業報告書

近年の少子高齢化の急速な進行、行財政改革の推進等、社会・経済情勢の目まぐるしい変化により、福祉を取り巻く環境も厳しいものとなっており、事業団においても自主性・自立性が発揮できる柔軟な法人経営と、利用者ニーズに応じたきめ細やかな福祉サービスの提供が求められている。

このような変化に迅速かつ的確に対応するため、本部をはじめとして組織全体の機能強化を推進している。中でも、当事業団の目指すべき方向と目標を実現するため策定した3ヵ年の中期経営計画について、設定目標達成に向けて各施設事業運営を進めた。

新規事業への取組としては、次世代育成支援拠点施設ふくふくこども館の初年度運営面において、3者からなる共同企業体の代表者としてリーダーシップを取り、事業の進捗管理について中心的な役割を果たした。

また、次年度の新規事業に向け、下関市が豊浦総合支所内に設置した障害児通所支援施設「下関市こども発達センター豊浦分室」の指定管理者募集に申込み、指定管理者に指定され、開設準備を行った。

その他、下関市が平成27年度より下関市こども発達センター機能強化を目的に小児科医師の配置を決定したことから、その機能を最大限発揮できるよう、事業団独自で診療所を建設することとした。

1. 役員等に関する事項

定数 年度当初：理事9名 監事2名 評議員19名

平成27年2月24日変更：理事8名（現員7名） 監事2名 評議員17名

2. 平成26年度理事会の開催状況

回	年月日/開催場所	審議内容	出席者数
5	平成26年5月29日 ふくふくこども館	議案第26号 平成25年度事業報告並びに決算の認定について	理事 9名
		議案第27号 評議員の変更について	監事 1名
6	平成26年8月20日 本部事務局	議案第28号 平成26年度下関市こども発達センターにおける新規事業について	理事 9名 監事 2名
7	平成26年10月2日 本部事務局	議案第29号 平成26年度第1回補正予算(案)について	理事 8名
		報告 中期経営計画の進捗状況について	監事 2名
1	平成27年1月14日 本部事務局	議案第1号 定款の一部変更について	理事 7名
		議案第2号 役員及び評議員選任規程の一部改正について	監事 2名
		議案第3号 給与規程の一部改正について	
		議案第4号 職員被服等貸与規程の廃止について	
		議案第5号 指定多機能型事業所運営規程【下関市こども発達センター豊浦分室】の制定について	
		議案第6号 平成26年度第2回補正予算(案)について	

		報告 1 工事請負契約締結及び診療所関係予算の執行について 報告 2 指定管理者への応募と選定結果について 報告 3 寄附金受領の報告について 報告 4 下関市監査委員会による出資法人監査結果について 報告 5 事業団開設 20 周年記念行事について 報告 6 こども発達センター所長の変更について	
2	平成 27 年 2 月 23 日 本部事務局	議案第 7 号 評議員の選任について	理事 6 名 監事 0 名
3	平成 27 年 2 月 24 日 こども発達センター 多目的室	議事 理事長の互選について 常務理事の指名について 理事長の職務代理について	理事 5 名 監事 0 名
4	平成 27 年 3 月 26 日 本部事務局	議案第 8 号 診療所の設置及び管理運営規程の制定について 議案第 9 号 組織規程の一部改正について 議案第 10 号 職員就業規程の一部改正について 議案第 11 号 給与規程の一部改正について 議案第 12 号 役員報酬及び費用弁償規程の一部改正について 議案第 13 号 決裁規程の一部改正について 議案第 14 号 団印規程の一部改正について 議案第 15 号 経理規程の一部改正について 議案第 16 号 旅費規程の一部改正について 議案第 17 号 福祉型児童発達センター運営規程の一部改正について 議案第 18 号 指定児童発達支援事業運営規程の一部改正について 議案第 19 号 指定多機能型事業所運営規程の一部改正について 議案第 20 号 デイサービスセンター指定通所介護事業運営規程の一部改正について 議案第 21 号 デイサービスセンター指定介護予防通所介護事業運営規程の一部改正について 議案第 22 号 平成 26 年度第 3 回補正予算(案)について 議案第 23 号 平成 27 年度事業計画及び予算案について 議案第 24 号 施設長の任免について 議案第 25 号 評議員の選任について 報告 1 診療所医師の配置について	理事 6 名 監事 2 名

3. 平成26年度評議員会の開催状況

回	年月日/開催場所	審議内容	出席者数
3	平成26年5月29日 ふくふくこども館	議案第7号 平成25年度事業報告並びに決算の認定について	評議員 13名
4	平成26年10月2日 市社会福祉センター	議案第8号 平成26年度第1回補正予算(案)について 報告 中期経営計画の進捗状況について	評議員 16名
1	平成27年1月14日 市社会福祉センター	議案第1号 定款の一部変更について 議案第2号 平成26年度第2回補正予算(案)について 報告1 工事請負契約締結及び診療所関係予算の執行について 報告2 指定管理者への応募と選定結果について 報告3 こども発達センター所長の変更について	評議員 15名
2	平成27年2月20日 市社会福祉センター	議案第3号 役員の選任について	評議員 12名
3	平成27年3月26日 市社会福祉センター	議案第4号 平成26年度第3回補正予算(案)について 議案第5号 平成27年度事業計画及び予算(案)について 議案第6号 理事の選任について	評議員 13名

4. 福祉サービスに関する苦情解決委員会第三者委員会の開催状況

回	年月日/開催場所	内容	出席者数
1	平成27年2月26日 本部事務局	(1) 各施設の現状と苦情解決に向けた取り組み	委員 3名

5. 施設連絡協議会の開催状況

回	年月日/開催場所	協議内容
1	平成 26 年 4 月 18 日 本部事務局	協議 1 こども発達センターの医師配置について 協議 2 中期計画の進捗管理について 協議 3 全事協中国・四国ブロック会議（引受）について
2	平成 26 年 5 月 28 日 下関市陽光苑	協議 1 中期計画の進捗管理について 協議 2 全事協中国・四国ブロック会議（引受）の議題について 協議 3 合同研修会について
3	平成 26 年 6 月 24 日 下関市こども発達センター	協議 1 各施設監査について 協議 2 全事協中国・四国ブロック会議（引受）について
4	平成 26 年 7 月 23 日 本部事務局	協議 1 職員協力体制の確立について
5	平成 26 年 8 月 25 日 下関市梅花園	協議 1 事業団設立 20 周年記念行事について 協議 2 中期計画の進捗状況報告について
6	平成 26 年 9 月 24 日 下関市陽光苑	協議 1 人事異動の自己申告調査について 協議 2 夏期休暇の取得状況について 協議 3 中期計画の進捗状況について
7	平成 26 年 10 月 21 日 下関市こども発達センター	協議 1 定款・規程の改正について 協議 2 永年勤続者の表彰について
8	平成 26 年 11 月 19 日 本部事務局	協議 1 事業団設立 20 周年記念行事について 協議 2 職員の定期健康診断の取扱について
9	平成 26 年 12 月 17 日 下関市梅花園	協議 1 1/1 付け人事異動の内示について 協議 2 1 月評議員会・理事会の予定について
10	平成 27 年 1 月 30 日 下関市陽光苑	協議 1 2 月評議員会・理事会の予定について 協議 2 苦情解決第三者委員会の開催について
11	平成 27 年 2 月 18 日 下関市こども発達センター	協議 1 3 月評議員会・理事会の予定について 協議 2 法人合同研修実施について 協議 3 開設 20 周年記念祝賀会について
12	平成 27 年 3 月 18 日 本部事務局	協議 1 平成 27 年度職員体制について 協議 2 年度変わりの事務処理について

6. 施設職員に関する事項 平成 27 年 3 月 31 日現在の職員数

区分	本部	こども発達センター	下関市梅花園	下関市陽光苑	ふくふくこども館	合計
事務局長	1(1)					1(1)
施設長		1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	4(4)
事務員	3	1	1(1)	1(1)	1(1)	7(3)
児童指導員		5(2)				5(2)
生活相談員・生活指導員			1	6		7
保育士		17(13)			4(4)	21(17)
子育て相談員					2(2)	2(2)
作業療法士		1				1
理学療法士		1				1
言語聴覚士		1				1
臨床心理士		2				2
言語指導員		1(1)				1(1)
介護職員・支援員			12(4)	20(17)		32(21)
看護師・准看護師		3(3)	2	4(2)		9(5)
栄養士		1	1	1		3
調理員		3(3)	6(5)	6(3)		15(11)
自動車運転手		2(2)				2(2)
医師		3(3)	1(1)	1(1)		5(5)
合計	4(1)	42(28)	25(12)	40(25)	8(8)	119(74)

※()は嘱託・パートで内数。 本部事務局長と、こども発達センター施設長は平成 27 年 3 月 31 日まで兼務。

7. 収支状況

本年度の収入は、介護保険事業収入 24,271,130 円、老人福祉事業収入 210,689,847 円、児童福祉事業収入 34,337,885 円、障害福祉サービス等事業収入 150,601,808 円、生活保護事業収入 156,041,319 円、福祉関係事業補助金収入 3,900,000 円、経常経費寄附金収入 459,000 円、受取利息配当金収入 47,339 円、その他の収入 3,299,686 円、施設整備等寄附金収入 2,015,600 円、積立資産取崩収入 2,160,000 円、合計 587,823,614 円であった。

支出は、人件費支出 364,123,154 円、事業費支出 141,364,023 円、事務費支出 33,719,051 円、固定資産取得支出 7,564,796 円、積立資産支出 35,093,166 円、合計 581,864,190 円であった。

収支差額 5,959,424 円を次年度に繰り越すこととなった。

また、各施設拠点区分から本部拠点区分へ 22,331,000 円の繰入、本部拠点区分からこども発達センター拠点区分へ 1,000,000 円の繰入、こども発達センター拠点区分において、相談支援サービス区分から地域支援サービス区分へ 832,000 円の繰入、陽光苑拠点区分において、陽光苑サービス区分から陽光苑デイサービスセンターサービス区分へ 1,260,000 円の繰入を行った。

本 部

1. 概 要

事業団の効率的な管理運営を図るため、次の事項を実施した。

(1) 理事会の開催

本年度は、7回開催した。役員等の選任、諸規程の制定、定款及び諸規程の一部改正、事業報告及び決算、事業計画及び予算等の議案を審議し、すべて承認された。また、理事会へ報告すべき事項については、随時報告を行っている。

(2) 評議員会の開催

本年度は、5回開催した。役員等の選任、定款の一部改正、事業報告及び決算、事業計画及び予算等の議案を審議し、すべて承認された。

(3) 経営基盤の強化

・施設連絡協議会の開催

本部事務局及び各施設の施設長及び副施設長で、定期的な連絡協議会を月1回開催し、施設間の連絡調整を図り、運営上の具体的な問題等について協議した。

・中期経営計画の進捗

前年度に策定した中期経営計画の実施初年度に当たることから、平成26年度の目標に設定した項目を着実に推進するため、進捗管理の取りまとめを行い、10月の理事会では取り組み状況の中間報告をした。

・年度別改修計画の策定

各施設とも設立より長期の年数が経過しているため、不具合箇所の調査を実施し、リスト化及び改修に係る概要経費の試算を行った。また、改修計画策定に向けて、主要な部分については各施設主管課に調査を依頼した。

・法人合同研修会の開催

リスクマネジメント（食中毒）対応の合同研修会を本部主催で実施し、各施設共通のテーマを法人全体で考える機会を持った。

・計画的な人事交流の検討

各施設正規職員に対して異動希望と職務に対する自己評価調査を行い、職員の意識把握に努めた。

(4) 新規事業業務

・ふくふくこども館

初年度事業開始における日常業務の事務的補助や予算管理、利用者を含む第三者委員による運営協議会・共同事業体による運営委員会の開催、館の調整会議・主管課との定例会に出席するなど、運営面でのサポートを

行った。結果、年間目標10万人の2.5倍となる約25万人の来館者があった。

- ・下関市こども発達センター豊浦分室

平成26年12月に、下関市が豊浦総合支所3階に設置した障害児通所支援施設「下関市こども発達センター豊浦分室」の指定管理者の指定を受けたため、下関市こども発達センターと本部が協働して、平成27年4月事業開始に向け準備業務を進めた。

- ・下関市こども発達センター診療所

下関市が平成27年度より下関市こども発達センター機能強化を目的に小児科医師の配置を決定したことから、その機能を最大限発揮できるよう検討を進め、事業団独自での診療所の建築を決めた。平成26年度に設計、着工し、平成27年4月20日に完成予定、平成27年5月1日から診療開始を目指した。

(5) その他

平成27年2月24日に設立された当事業団の開設20周年に当たることから、勤続20年、勤続10年を迎えた職員に対し永年勤続表彰を実施した。

2. 収支状況

本年度の収入は、福祉関係事業補助金収入3,900,000円、経常経費寄附金収入80,000円、受取利息配当金収入23,819円、その他の収入13,000円、施設整備等寄附金収入1,000,000円、拠点区分間繰入金収入22,331,000円、合計27,347,819円であった。

支出は、人件費支出19,640,501円、事業費支出80,000円、事務費支出3,760,391円、積立資産支出2,851,926円、拠点区分間繰入支出1,000,000円、合計27,332,818円であった。

収支差額15,001円を次年度に繰り越すこととなった。

は た ぶ 園

1. 概 要

定員30名の福祉型児童発達支援センターとして、こども発達センターの理念に基づき、利用児一人ひとりの発達に応じた専門的な支援を行うために、個別支援計画を作成して目標や課題を設定し、集団保育や個別指導を通して、運動、認知、言語、感覚機能等の発達を促すとともに、食事・排泄・衣服着脱・挨拶等の基本的な生活習慣を身につけ、将来の生活に必要な基礎を育てるための療育を行った。

さらに、運動機能面・言語面において発達の遅れや障害がある通園児に対して、発達支援室のスタッフによる運動訓練や言語訓練を行うとともに、定期的な発達検査及び保護者に対しての心理相談を行った。

2. 通園児の状況（平成27年3月31日現在）

（1）年齢別男女別通園児数

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計
男	0	0	0	0	6	7	14	27
女	0	0	0	0	2	3	5	10
計	0	0	0	0	8	10	19	37

（2）月別通園児数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
初日在籍児数（人）	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	444
開園日数（日）	19	20	21	22	18	19	23	18	20	19	19	20	238
延通園児数（人）	638	678	714	677	597	634	779	606	659	609	618	689	7,898

<参考> 25年度実績 通園児 396人 開園日数 234日 延通園児数 6,888人

24年度実績 通園児 396人 開園日数 238日 延通園児数 7,002人

（3）卒園児等

平成26年度は19名が卒園した。そのうち17名が就学し、1名が幼稚園に、他1名が保育所に就園した。

3. 活動の概要

（1）療育活動の状況

視覚的支援・構造化等を取り入れ、個別支援計画に基づいた一人ひとりの発達に応じた療育活動を行った。保護者には、実施した活動の記録を渡し、療育活動の詳細な内容を伝えた。また、クラス懇談会・個人面談・家庭訪問・保護者参加の療育活動を定期的に行うことで家庭支援にも力を入れた。

職員の資質向上を図るため、各種研修への参加や、施設内研修・勉強会などを積極的に実施した。

平成26年度は4クラスとし、待機児の解消、少人数でのよりよい支援の提供に努めた。

(2) 年間行事等

年	月	行 事 名
26年	4月	入園式、誕生会、はじめましての会
	5月	バス遠足（黒崎こどもの館）、誕生会
	6月	保護者参観、誕生会、総合消防訓練
	7月	誕生会、クラス懇談会
	8月	夏祭り
	9月	総合消防訓練
	10月	クラス遠足（ぞう組・乃木浜公園、うさぎ組・子育てふれあい交流プラザ、こあら組・海峡ドラマシップ鉄道記念館）、運動会、給食試食会
	11月	誕生会、クラス遠足（きりん組・海峡ドラマシップ）、クラス懇談会（ぞう組・きりん組）
	12月	誕生会、クリスマス会、お買い物体験（ぞう組、こあら組・セブンイレブン）
27年	1月	誕生会、クラス懇談会（こあら組）
	2月	豆まき、誕生会、外食体験（ぞう組、うさぎ組・マクドナルド）、クッキング（きりん組）、クラス懇談会（うさぎ組）
	3月	誕生会、お別れ会、卒園式、園外保育（ぞう組、こあら組・子育て交流プラザ、きりん組・ふくふくこども館、うさぎ組・海響館）、仮入園

(3) 地域との交流等

近隣の幼稚園・保育所との交流を行うとともに、夏まつりでは多くのボランティアの参加のもと地域住民との交流を図った。

4. 収支状況

本年度の収入は、障害福祉サービス等事業収入 86,502,100 円、経常経費寄附金収入 119,000 円、受取利息配当金収入 3,006 円、その他の収入 1,322,990 円、施設整備等寄付金収入 396,400 円、積立資産取崩収入 2,160,000 円、合計 90,503,496 円であった。

支出は、人件費支出 64,361,135 円、事業費支出 9,198,088 円、事務費支出 3,860,737 円、固定資産取得支出 2,694,060 円、積立資産支出 6,091,240 円、拠点区分間繰入金支出 3,097,000 円、合計 89,302,260 円であった。

収支差額 1,201,236 円を次年度に繰り越すこととなった。

保育所等訪問支援

1. 概 要

地域の保育所・幼稚園、教育機関などに通う子どもたちが、集団生活に適応できるように、担当者への助言等の支援を行った。

訪問先は、保育所、幼稚園、認定こども園、小学校などで保護者との契約により実施した。

平成26年度は、保育所園児1名、幼稚園児2名、小学校児童1名の保護者と契約を行い、保育所に2回、幼稚園に4回、小学校4回の計10回訪問し、支援を行った。

当事業は、はたぶ園の通所事業と並行して行っているため、職員数の限りがあることから利用対象を広げづらく、当事業をどのように継続できるか今後の課題となっている。

2. 収支状況

本年度の収入は、障害福祉サービス等事業収入 88,200 円であった。支出は、事業費支出 72,176 円であった。収支差額 16,024 円を次年度に繰り越すこととなった。

相 談 支 援

1. 概 要

医療機関・保健所・幼稚園・保育所からの紹介を受け、療育機関の情報提供や将来に向けての助言、医療的な支援の必要性について説明を行った。また、障害福祉サービスの利用を希望するすべての障害児（者）に対し、サービス等利用計画の作成が必要となったことから、引き続き計画の作成を行った。

下関市自立支援協議会の相談部会とこども部会に出席し、支援が必要な大人や子どもを取り巻く環境改善に取り組んだ。また、旧4町の療育が必要な児童・生徒を支援するために必要な新規施設について協議を行った。

その他、ボランティア研修会を通じてボランティア育成を行った。

山口県のペアレントメンター事業のバックアップ機関として、メンターとともに研修参加やグループ相談の調整等を行った。

2. 活動の状況

(1) 障害種別実績

(人)

相談者数		相談者数	内 訳							合計
			身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他	
障害者	実人数	36	8	2	23	3	6	0	0	42
	延人数	1,049	675	16	240	455	53	6	0	1,445
障害児	実人数	428	51	19	292	0	284	0	27	673
	延人数	3,087	521	257	2,191	0	1,936	2	72	4,979

(2) 地区別相談者数

(件)

地区別相談者数		内 訳								
		本庁	山陽	山陰	豊浦	菊川	豊北	豊田	その他	合計
障害者	実人数	26	2	6	1	0	0	0	1	36
	延人数	598	23	419	7	0	0	0	2	1,049
障害児	実人数	130	88	153	19	9	3	4	22	428
	延人数	1,002	492	1,279	154	49	9	29	73	3,087

(3) 相談の支援方法

(件)

支援方法	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関訪問・相談	その他	合計
件数	102	1,276	10	2,391	65	38	248	6	4,136

(4) 支援内容

(件)

支援内容	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や症状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援
件数	3,955	117	256	6	161	32	16	14	45
支援内容	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	合計					
件数	6	0	0	4,608					

※障害種別、支援方法、支援内容は重複

(5) サービス等利用計画作成件数

障害児相談支援

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
契約数	19	13	4	6	3	4	9	2	1	4	7	20	92
計画作成	63	41	32	14	17	8	11	14	18	11	14	56	299
モニタリング	4	24	27	12	25	94	16	2	18	11	6	55	294

特定相談支援

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
契約数	0	1	0	0	0	0	1	1	7	1	1	1	13
計画作成	5	2	2	3	1	1	2	8	1	6	4	5	40
モニタリング	0	2	1	0	3	2	2	1	3	1	1	1	17

3. 収支状況

本年度の収入は、障害福祉サービス等事業収入 14,522,288 円、受取利息配当金収入 311 円、合計 14,522,599 円であった。

支出は、人件費支出 10,058,058 円、事業費支出 192,300 円、事務費支出 815,402 円、積立資産支出 1,757,120 円、サービス区分間繰入金支出 832,000 円、合計 13,654,880 円であった。

収支差額 867,719 円を次年度に繰り越すこととなった。

地 域 支 援

1. 概 要

利用者に対して、センター内の療育や相談、社会資源の情報提供を行った。また、関係機関との連携や啓発に関する事業として旧市内及び旧4町の幼稚園・保育所・保健師との発達支援連絡会を開催し、外部講師を招いた講演会を1回、専門職による研修を1回、年間2回実施した。

センター内の各事業において理学療法士等の専門職が療育活動に参加し、他職種間の連携に努めた。

その他、家族や関係者に向け、子ども達の理解や支援につながるよう保護者研修・ボランティア研修を行った。

2. 発達支援事業の活動の概要

(1) 心理部門

利用者のニーズに応じて相談業務を行った。また、他部門の職員と連携し、発達相談や育児相談・カウンセリング等を行った。はたぶ園、どーなつ、キッズハウス、その他相談や外来等のケースにおいて、他職種と連携し、子どもたちの総合的、多面的な評価に努め、チームで支援にあたった。関係機関への訪問や来所による施設支援を行った。

(2) 言語部門

はたぶ園、どーなつ、母子通園訓練事業（キッズハウス）との連携を図り、子ども達や家族への支援を行った。

センター利用の子どもたち一人ひとりのニーズに応えた個別指導に努めた。子ども達の発達の状態を他職種と多面的に評価し、よりよいコミュニケーション支援に努めた。

(3) 理学・作業療法部門

センター利用の子ども達一人ひとりの個別指導を行った。18歳以上（高校卒業）のケースを他機関に移行する形で紹介し、低年齢の子どもたちの訓練頻度や新規枠の拡大を図った。はたぶ園、どーなつ、母子通園訓練事業（キッズハウス）との連携を図り、チーム全体として子ども達や保護者への支援を行った。はたぶ園の子ども達の補装具の調整を業者、保護者と共に年二回実施した。また、外部研修や施設内研修、専門職同士による勉強会を行い、個別指導の技術、知識向上、支援方法の統一化を図った。主治医や他機関訓練担当者との連携を図った。また、訪問や来所による施設支援を行った。

3. 下関市障害児（者）療育等支援事業の活動の概要

(1) 在宅支援訪問療育等指導事業

豊浦総合支援学校で行われている訪問療育「とよそうキッズ」に職員を派遣し、昨年に引き続き支援を行った。

(2) 在宅支援外来療育等指導事業

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士等専門職による個別の訓練指導を行った。

また、はたぶ園の利用児以外の児童に対して嘱託医による健康診査を行った。

(3) 施設支援一般指導事業

利用児が通う幼稚園、保育所、学校へフォローのための支援を行った。さらには、障害児保育を行う保育所等の職員からの相談に応じるとともに技術指導を行った。

(4) 支援実績（平成27年3月31日現在）

事業名		指導先件数（件）	延回数（回）
在宅支援訪問療育等指導事業		102	175
内	巡回相談	102	175
	訪問による健康診査	0	0
在宅支援外来療育等指導事業		1,860	2,596
施設支援一般指導事業		50	87

4. 収支状況

本年度の収入は、障害福祉サービス等事業収入 27,346,970 円、施設整備等寄付金収入 619,200 円、サービス区分間繰入金収入 832,000 円、合計 28,798,170 円であった。

支出は、人件費支出 23,836,960 円、事業費支出 1,157,085 円、事務費支出 1,573,532 円、固定資産取得支出 935,656 円、積立資産支出 184,320 円、拠点区分間繰入金支出 721,000 円、合計 28,408,553 円であった。

収支差額 389,617 円を次年度に繰り越すこととなった。

児童発達支援 どーなっ

1. 概要

発達気になる子どもや障がいのある子どもに日常生活における基本的な生活習慣の確立を促し、スムーズに集団適応ができるよう支援した。個々の特性や発達に応じた集団保育をベースに運動・認知・言語・社会性の発達を促した。

2. 利用の状況

(1) 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	12	20	21	21	18	19	21	18	19	19	19	15	222
延利用児数(人)	178	307	356	308	355	330	337	290	308	296	327	259	3,651
1日平均(人)	14.8	15.4	17.0	14.7	18.1	17.4	16.0	16.1	16.2	15.6	17.2	17.3	16.3
初日契約児数(人)	75	103	106	108	110	110	112	110	111	112	113	113	—

参考 25年度実績 開所日数 223日、利用延数 3,298人、1日平均 14.7人

24年度実績 開所日数 227日、利用延数 3,001人、1日平均 14.5人

(2) 活動の概要

児童発達支援管理責任者を配置し、利用児一人ひとりに対して個別支援計画を作成、発達支援室職員と共に継続的な評価等を行い、サービスの充実につながるよう努めた。年齢や発達段階に応じたグループ編成をし、より効果的な療育と個々に必要な支援をタイムリーに行えるよう努めた。また、1グループの登録数を15名までに増やしたことで、待機児が解消され利用率が向上した。

発達障害児に有効な視覚支援(実物・写真カード等)を活用し、子ども達に分かりやすく伝えたり要求する手段としてもカードを利用するコミュニケーション支援を行った。

幼稚園・保育所との併用児については、必要な児には訪問支援を行い、幼稚園・保育所の職員と支援方法について確認をし、保護者を含めた情報共有や共通認識を行った。

3. 収支状況

本年度の収入は、障害福祉サービス等事業収入 21,125,850円、経常経費寄附金収入 60,000円、受取利息配当金収入 3,157円、拠点区分間繰入金収入 1,000,000円、合計 22,189,007円であった。

支出は、人件費支出 12,569,358円、事業費支出 806,485円、事務費支出 739,032円、固定資産取得支出 1,320,000円、積立資産支出 4,045,375円、拠点区分間繰入金支出 2,102,000円、合計 21,582,250円であった。

収支差額 606,757円を次年度に繰り越すこととなった。

母子通園

1. 概要

母子通園訓練事業（キッズハウス）では、おおむね3才までの心身障害児や発達のお気になる子に対して早期療育を行った。

2. 母子通園訓練事業の状況

(1) 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開設日数（日）	4	4	4	5	3	4	5	4	4	4	3	4	48
利用組数（組）	25	16	22	35	20	30	47	35	35	37	25	36	363

参考 25年度実績 開園日数 48日 延利用組数 642組

24年度実績 開園日数 48日 延利用組数 561組

(2) 活動の概要

毎週水曜日、おおむね3才までの発達障害や発達の遅れが気になる子どもとその保護者を対象に、保育士が各専門職員と連携し、遊びを通して療育活動を行った。親子での活動を通して、安定した母子関係の基本となる豊かなコミュニケーション力を育てるとともに、保護者との連携を密にすることで、子どもの状態をより把握し、保護者が障害や発達の遅れを受容し、愛情と将来の見通しを持って子育てができるよう支援を行った。

少人数でのよりよい療育や母子支援のため、2グループの隔週利用とし、支援の充実を図った。

保護者交流会を実施し、保護者同士の交流の場を設け、保護者間のつながりを深めた。

3. 収支状況

本年度の収入は、障害福祉サービス等事業収入 1,016,400 円であった。

支出は、人件費支出 943,685 円、事業費支出 10,756 円、事務費支出 22,764 円、拠点区分間繰入金支出 35,000 円、合計 1,012,205 円であった。

収支差額 4,195 円を次年度に繰り越すこととなった。

梅 花 園

1. 概 要

定員60名の救護施設として、身体上または精神上著しい障害があり、独立して日常生活を営むことのできない要保護者に対して、措置機関の委託により、生活保護法第38条の規定に基づいて生活扶助を行った。

2. 入園者の状況（平成27年3月31日現在）

(1) 年齢構成

(単位 人)

内訳	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	合計	平均年齢
男	0	0	0	2	9	13	7	31	62.0歳
女	0	0	1	3	2	11	9	26	64.6歳
計	0	0	1	5	11	24	16	57	63.2歳

※最高年齢：男性74歳 女性85歳

(2) 在園期間の状況

(単位 人)

内訳	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15年以上	合計	平均
男	5	5	5	5	3	8	31	8.7年
女	2	3	4	4	4	9	26	15.4年
計	7	8	9	9	7	17	57	11.8年

(3) 入退園の状況

(単位 人)

内 訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月初在園者	54	55	55	55	56	56	56	57	57	58	57	56	672
入園者	1	0	1	1	1	0	1	0	1	0	0	1	7
退園者	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	4

参考：25年度 年間入園者合計683名（月平均56名） 入園者5名 退園者10名

(4) 障害等の状況

(単位 人)

内訳	身体障害	知的障害	精神障害	知的・身体障害	知的・精神障害	身体・精神障害	身体・知的・精神	その他	障害なし	合計
男	2	5	13	1	5	3	0	1	1	31
女	0	6	10	1	5	0	2	0	2	26
計	2	11	23	2	10	3	2	1	3	57

平成26年4月は入園者54名でスタートした。前年度に比べ、新規入園者数は2名増加、退園者数は6名減少し、年間を通じて平均すると月56名となった。入園者の事由は、病院退院後帰来先がない、または単身生活が困難との判断で入園となるケースが大半だった。特殊なケースとして、地域定着支援センターの依頼で矯正施設退所後、入園に至ったケースがあった。退園に関しては、ほとんどが高齢による身体機能低下で園の生活が困難となり、介護保険施設への移行手続きが必要なため病院へ移るケースだった。1件ほど、入院3ヶ月が経過し措置切れで一時的に退園となったが、病状が回復したため再入園となったケースがあった。

3. 処 遇

個別ニーズに沿ったサービスを提供できるよう個別支援に取り組んでいる。行事やクラブ活動の実施以外にも、希望があればグループや個人外出に出かけるなど、充実した日々が過ごせるよう処遇の改善に努めた。

(1) 年間行事等

年 月	園 内 行 事		園 外 行 事
26年4月	誕生会		日帰りレク(いちご狩り)37名
5月	誕生会		日帰りレク(唐戸散策)36名
6月	誕生会		買い物ツアー 43名
7月	誕生会・園内消毒	胸部レントゲン	日帰りレク(川棚グランドホテル)53名 陽光苑盆踊り 16名
8月	誕生会・盆踊り		
9月	誕生会		買い物ツアー 44名
10月	誕生会・お好み焼会	園内清掃	日帰りレク(コスモスウォーク)34名、一泊旅行(山口)27名
11月	誕生会・園遊会	予防接種 避難訓練	吉見地区文化祭出展
12月	誕生会・クリスマス会・もちつき	大掃除 不在者投票	
27年 1月	祝賀会・誕生会 すき焼き会	不在者投票	初詣(忌宮神社、乃木神社、住吉神社)32名
2月	誕生会・節分豆まき・ ふく贈呈式	布団乾燥	
3月	誕生会・ひな祭り 開設記念	避難訓練 不在者投票	

行事の中で、利用者が最も楽しみにしているのが一泊旅行だが、高齢化に伴って体力低下が目立ち、長距離移動が負担となる利用者が増加したため、県内の旅行を実施した。

(2) クラブ活動

外部講師によるクラブ活動の時間を持ったことと、レクリエーション委員会を立ち上げ、利用者と共にレクリエーション会議を計画し年3回開催したことで、活動内容の幅が広がり、利用者が主体的に楽しむことのできる内容となった。園内イベントとして、レクリエーション会議で要望のあった宝探しを企画し実施したところ、多くの利用者が参加し好評を得た。ハイキングでは深坂の森へ行き、野外でカレー作りを行った。体力面の問題で参加者は限定されたものの、参加者からは普段はできない調理体験ができたと高評価を得られた。

クラブ名	平均参加人数		実施状況	講師	職員	備考
	男	女				
陶芸	2	5	月2回	外部	2	
お茶会	4	12	月2回	外部	2	
踊り	6	10	月2回	外部	7	
カラオケ	4	5	月3回	—	2	
ぬり絵等	2	8	月3回	職員	3	※1
ハイキング	5	6	年3回	—	5	※2
ボウリング	15	8	年1回	—	5	
カラオケボックス	8	6	年1回	—	3	
映画上映	4	7	年7回	—	—	
書道	7	9	年3回	職員	2	
宝探し	16	17	年1回	—	3	

※1 ぬり絵のほか、行事の飾り付け作成、折り紙細工など ※2 吉母、毘沙の鼻、深坂の森

(3) 作業の状況

作業名	平均参加人数		実施状況	備考
	男	女		
全員作業	全員	全員	月1回	園内清掃、除草、野菜の栽培など
ポイント制作業	3	3	月8回	園内清掃、除草、野菜の栽培など ※

※利用者に参加する動機付けとしてポイントを付与している。

農作業・・・地域交流・貢献委員会を立ち上げ、主体となって農作物の栽培や土壌改良に努めた。畑は粘土質のため改良が難しいが、市販の肥料や堆肥を購入し改良に取り組んでいる。畑では玉ねぎ・さつまいも・じゃがいも、絹さや等を栽培し、収穫した野菜はクラブ活動講師や近隣住民へ配布するとともに給食材料として使用した。さつまいもの出来は特によく、初めて販売という形で収入を得ることができた。

園芸作業・・・花壇にチューリップや水仙の球根やポーチュラカの苗を植えた。

(4) 職場体験

将来的に施設を退所し、自立した生活を望んでいる利用者に対し、地域のリネン会社である東洋ランドリーに協力して頂き、3名の入所者が日、木曜以外の午後から職場体験を継続して行っている。

(5) 健康管理について

- ①嘱託医による定期検診（毎月）
 - ②定期採血（半年に1回）※必要のある人は毎月 下関病院附属地域診療クリニック
 - ③胸部エックス線間接撮影（年1回） 下関市医師会病院
 - ④インフルエンザ予防接種（11月） 下関病院附属地域診療クリニック
- 平成25年度はインフルエンザが園内で感染拡大したが、平成26年度は罹患者0名だった。

(6) 地域交流について

各種慰問団体の受け入れ、盆踊大会、地域文化祭出展等に積極的に参加。また、近隣農家の除草作業の手伝い、自治会主催のクリーン作戦（49名参加）、古宿海岸のピカピカ作戦（9名参加）に参加した。

施設単独の取組みとして、道路脇の草取りを全員参加の作業日以外にも4回実施した。

(7) 利用者の希望、要望について

施設内に意見箱を設置し月に2回開いて、投書された内容を確認し、利用者へ報告する機会を設けるとともに、文書化して掲示した。意見箱の他に直接利用者からの意見を聴く座談会は月に2回実施した。

食事や調理に関する意見は大半がメニューに関するもので、栄養士が給食のメニューに取り入れている。行事に関する希望は、旅行先の希望が大半で旅行案として検討した。他の利用者、職員に対する苦情もあり、ひとつひとつ原因を追究し解決策を模索した結果、同伴についての苦情は減っている。設備、備品に関する意見もあり、今年度はテレビ、洗濯機、給湯器を買い替えた。

4. 福祉サービス第三者評価受審について

今年度初めて、福祉サービス第三者評価を平成27年1月に受審した。平成25年度より根本的なマニュアルの整備から開始し、各種委員会を立ち上げ、職員の意識改革に努めた。特に利用者に対する権利擁護の意識が決定的に欠けていたことと、地域交流、貢献活動が不足していることが自覚でき、内部研修の開催や自治会の会合に参加するなど、新たな取り組みも行った。評価報告書はこれから受理する段階であるが、評価を真摯に受け止め、今後指摘された事項等に対しては改善に努めていきたい。

5. 実習生受け入れについて

相談援助実習生として、前年度から引き続き4月までに1名及び11月から2月まで1名、介護等の体験者として短期で1名受け入れを行った。

6. 収支状況

本年度の収入は、生活保護事業収入156,041,319円、受取利息配当金収入7,496円、その他の収入116,971円、合計156,165,786円であった。

支出は、人件費支出87,947,516円、事業費支出45,527,171円、事務費支出7,623,044円、固定資産取得支出699,840円、積立資産支出7,801,300円、拠点区分間繰入金支出5,834,000円、合計155,432,871円であった。

収支差額732,915円を次年度へ繰り越すこととなった。

陽 光 苑

1. 概 要

施設運営については、中長期計画に基づき入苑者増加を目指し、年間平均入所者数は前年の113.9名/月と比較し、今年度は117.3名/月と増加が図れた。平成26年度は年間を通して新規入苑者が少ない中で、入苑者増が図れた背景として、早出勤務の導入や正規職員の役割の明確化・手すりや介護ベッドの導入による施設環境改善にて、入院や退苑に繋がる重大事故の減少が図れたことと、末期癌等の重篤な疾患者に対して「死の直前」まで施設生活が継続できるよう親身な支援に努めたことが挙げられる。また、職員の資質向上に努め、障害者加算取得人数62名（平成26年4月1日時点）に著されるように、心身障害者の受け入れにも柔軟に対応している。

入苑者への対応については、日常的な機能訓練を「お達者クラブ」という形で入所者に提供をするほか、要介護認定者に対しては積極的に介護サービスを導入し、併設デイサービスセンターを利用しての機能訓練機会の増大や適切な介護機器の導入に努め、心身状況の維持・向上活動に努めることが出来た。また衛生管理面では、感染症等の予防活動に職員・入苑者が施設一丸で取り組み、インフルエンザが全国的に大流行する中で1名の発症も無かった。

老朽化した備品・付帯設備等の更新については、新しくリストアップを行い、それを元に主管課との積極的な協議を開催し、更新計画を議論している。平成26年度は、主管課の尽力により長年の課題であったナースコールシステムの更新が行えた。各居室は勿論のこと、居室トイレへのナースコール増設により、入苑者が安心して生活を行える施設環境が構築された。また衛生・健康面へも配慮し、老朽化した集会所畳の表替や事務所空調設備の更新を行った。

介護予防支援短期宿泊事業においては、平成26年度の利用者は4名と少数ではあったが、関係機関との密な調整により、被虐待高齢者や生活破綻高齢者の緊急的な受け入れや、長期間の利用要請に柔軟に対応できた。特に被虐待者に対しては、身柄の安全確保・虐待の再発防止に努めることが出来、施設の社会的役割を全うすることが出来た。今年度は短期宿泊事業利用者の内、1名が本人の希望により陽光苑へ入苑となった。

2. 入苑者の状況

(1) 月別入苑者数（各月1日現在）

（単位：人）

内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 平均
入苑者数	115	116	116	117	118	118	118	119	118	118	117	117	117.3
入苑	1	1	0	2	1	2	2	1	1	0	1	0	12
退苑	0	1	0	0	1	3	0	2	1	1	1	2	12

※入苑者数合計1,407名（25年度1,367名：月平均113.9名）

※退所者内訳：死亡6名・長期入院6名

(2) 措置機関別入苑者数（定員130名）（平成27年3月31日現在）

（単位：人）

措置機関	下関市	宇部市	長門市	萩市	小国町	現員
人 数	104	1	8	1	1	115

(3) 年齢構成 (平成 27 年 3 月 31 日現在) (単位 : 人)

区分	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 以上	合 計
男性	2	17	12	7	11	3	1	53
女性	1	5	8	11	19	7	11	62
計	3	22	20	18	30	10	12	115

※最高齢者 男性 91 歳 女性 96 歳 平均年齢 77.5 歳 (男性 73.8 歳 女性 80.6 歳)

(4) 在苑期間 (平成 27 年 3 月 31 日現在) (単位 : 人)

区分	1 年未満	1～3 年	3～5 年	5～10 年	10～15 年	15 年以上	合 計	平 均
男性	7	13	8	15	6	4	53	5.9 年
女性	4	14	17	15	8	4	62	6.5 年
計	11	27	25	30	14	8	115	6.3 年

3. 処 遇

平成 26 年度重点目標に沿って健康維持・事故防止対策を充実させ、入苑者の心身状況維持・向上を目標に処遇に臨んだ。具体的には、機能訓練を「お達者クラブ」で導入し、楽しみながらも日常的に継続できる訓練機会の確保に努めた。また活動がマンネリ化しないようプログラムに工夫を凝らした。またヒヤリハット事故報告をもとに具体的な事故再発防止策を講じ、施設内に浸透させていくことに留意し、入苑者の安心・安全確保に努めた。

施設日課においては、入苑者の担当受け持ち期間を 3 ヶ月から 6 ヶ月に延長し、コミュニケーションや生活支援の密度を高めることで、入苑者を深く知ること・信頼関係を強化することに取り組んだ。その他にも早出勤務の導入やパート支援員の採用を行い、各生活時間帯の支援に厚みを持たせる体制を構築した。

その他にも、次回の福祉サービス第三者評価事業受審・職員の対応の統一化と専門性の向上に向け、各マニュアル類の整備やケアプラン様式の改訂に取り組んだ。また、法改正や制度変革に係る研修会へ積極的に参加し、最新の福祉情勢を学ぶ機会を設けている。

(1) 主要苑内行事

毎月	誕生会・喫茶・外出レクリエーション・苑内レクリエーション・自治会役員会・選択食
4 月	居室消毒・神社庁健康祈願
5 月	園遊会・地震想定避難訓練
6 月	衣類販売・日帰り旅行 (柳井方面)・バイキング食
7 月	日帰り旅行(川棚方面)・施設消毒・夏祭り(地区自治会共同実施)
8 月	盆供養・梅花園夏祭り参加・胸部 X 線撮影
9 月	敬老祝賀会 (地区招待)・彼岸供養・実習生受入
10 月	昼間想定避難訓練・県老人ホームグラウンドゴルフ大会・居室消毒・自治会当番慰労会・市老施協演芸大会・衣類販売

11月	居室消毒・焼き芋大会・開設記念祝賀会・日帰り旅行（福岡方面）・吉見地区文化祭・インフルエンザ予防接種
12月	クリスマス年忘れ会・クリスマスイルミネーション
1月	新年祝賀会・書き初め大会・どんと焼き・書き初め・不在者投票
2月	豆まき・針供養・バイキング食・
3月	ひな祭り・彼岸供養・夜間想定避難訓練・自治会当番慰労会・居室消毒

(2) クラブ活動

クラブ名	平均参加人員			指導者	実施状況
	男性	女性	計		
大正琴	1	7	8	外部	月2回程度実施
陶芸	3	4	7	外部	月1回程度実施
手工芸	0	10	10	職員	月1回程度実施
カラオケ	9	8	17	職員	月2回程度実施
グラウンドゴルフ	6	2	8	職員	月1回程度実施
絵画	8	22	30	職員	月1回程度実施
苑内外作業	15	25	40	職員	月1回程度実施

●平成26年度ボランティア受入状況

年月日	団体名
5月11日	ジャグラー三世ニューマジック慰問
12月13日	あかね会クリスマスコンサート
2月9日	ふく連盟慰問
3月15日	竜岡カラオケクラブ慰問
3月26日	神社庁健康祈願

(3) 介護予防支援短期宿泊事業

下関市から委託を受け、在宅での生活が一時的に困難で、介護保険の対象にならないおおむね65歳以上の利用者を短期間お世話する事業を行った。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4
利用日数	18	0	13	0	0	0	0	0	0	0	5	10	46

※利用実数4名

(4) 健康管理について

- ①嘱託医による定期検診（毎月）
- ②胸部エックス線間接撮影（年1回） 下関市医師会病院
- ③インフルエンザ予防接種（年1回） 江藤病院
- ④基本健康診断（年2回） 江藤病院

4. 収支状況

本年度の収入は、老人福祉事業収入 210,689,847 円、受取利息配当金収入 6,101 円、その他の収入 384,339 円、合計 211,080,287 円であった。

支出は、人件費支出 110,321,813 円、事業費支出 65,338,144 円、事務費支出 11,983,116 円、固定資産取得支出 1,771,600 円、積立資産支出 12,268,465 円、拠点区分間繰入金支出 6,979,000 円、サービス区分間繰入金支出 1,260,000 円、合計 209,922,138 円であった。

収支差額 1,158,149 円を次年度に繰越すこととなった。

陽光苑デイサービスセンター

1. 概 要

施設運営については、介護保険定員を 15 名から 18 名に変更して、利用者の受入れ体制を整えた。

中期経営計画の目標に掲げた一日平均 12.5 名達成を目指し、地区への広告配布・利用者よりの紹介活動や、併施設との連携に取り組んだ。広告配布では反応はなかったが、利用者よりの口コミ・紹介では 2 名の新規利用者獲得が出来た。また、併施設との連携強化に努め、平成 27 年 3 月末時点で 8 名が通所介護を利用している。

こういった経営努力を行い、介護保険利用人数は、上半期は 11.3 名／日の利用があり、下半期では利用者の入院や死亡などによる利用中止が相次いだが、年間平均利用者数は 10.5 名／日を確保した。また、新規利用者のみではなく現利用者に対しても、積極的にニーズ調査を行い、計画の見直しを検討した。具体的には、入浴機会の増加による加算増収に努めるほか、利用回数増に対しても、介護保険申請の支援や、希望に沿った利用回数の増加に柔軟に対応した。

また、平成 27 年度介護保険法改正に向け、各研修会へ積極的に参加し情報収集や、体制検討を行った。法改正に際し、利用者が混乱しないよう十分な説明に取り組んだ。職員配置についても、現状に即した配置へ見直すことを目的として平成 27 年度より併施設看護師の兼務体制をとれるよう、様式・連絡体制・業務分担等の構築を行った。

◆通所介護・介護予防通所介護

要介護者及び要支援者を対象とした制度であるところから、個々の通所介護計画に沿い、入浴・排泄・食事といった日常生活上の必要な支援を行った。高齢化・重度化していく利用者の状態や家庭環境に応じた機能訓練や見守り・介助に積極的に取り組んだ。また、利用者・家族へのニーズ調査を実施し、利用回数・入浴回数の増加に柔軟に対応した。

◆介護予防支援通所

介護保険による支援を必要としないものの、日常生活を営む上で何らかの援助が必要な人達に対して、要支援あるいは要介護になる事を予防するため、ストレッチ運動や軽体操および口腔体操などの機能訓練を行った。

状態変化や利用回数を増やしたいとの要望があがった際には、居宅事業所と連携して介護保険申請の支援等に取り組んだ。

◆生きがい支援通所

介護保険通所事業・介護予防支援通所事業の範疇には入らないが、閉じこもりの解消等の支援が必要な人達に利用していただき、生きがいのある生活を送ることができるよう、楽しみの提供と社会性の喪失防止に努めた。

2. 利用者数内訳（平成 27 年 3 月 31 日現在）

(1) 介護保険（通所介護）事業 平成 26 年度登録人数 30 人 (単位：人)

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
26	186	174	178	186	185	178	185	121	143	133	149	164	1,982
25	200	211	193	210	222	200	210	199	188	176	177	174	2,360

(2) 介護保険（介護予防通所介護）事業 平成 26 年度登録人数 19 人 (単位：人)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26	56	60	57	51	48	49	49	48	48	43	43	44	596
25	40	35	40	45	42	39	43	38	34	48	53	58	515

(3) 介護予防支援通所事業 平成 26 年度登録人数 17 人 (単位：人)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26	21	27	29	27	28	26	26	25	25	26	24	19	303
25	43	44	42	45	38	38	37	30	28	31	29	28	433

(4) 生きがい支援通所事業 平成 26 年度登録人数 5 人 (単位：人)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26	3	4	2	2	2	4	4	2	2	2	2	5	34
25	4	4	3	4	2	2	2	7	7	2	2	2	41

3. 主要行事

接遇・行事面については、心身機能の維持・向上を目的として、知能リハビリプリントや苑内の歩行訓練・タオル干しや洗濯たたみ作業等、利用者の状態や在宅環境に合わせた機能訓練に努めた。更に健康維持を目的として、健康アドバイスや食事に対する助言を利用者に対して行った。特にインフルエンザ流行期においては、利用者の罹患予防を目標に、来苑時の手指の消毒やうがいを導入し、体調不良による休苑者を減らす努力を行なった。それらの対策は、インフルエンザ流行が去った後も利用者間で風邪予防として継続されている。

その他にも食事中の見守り体制強化にて事故防止に努めるとともに、食後の歯磨き支援を導入し、利用者が居室に戻った後も、適切な生活動作を習慣化していけるよう取り組みを進めている。

また、昨年度アンケートで要望の多かった外出レクリエーションについても、全利用者が参加できるよう計画・実行し、好評を得た。

毎回	※ストレッチ運動・口腔体操・歩行訓練等の機能訓練 ※洗濯干し・洗濯たたみや歯磨き等の生活動作訓練
随時	※知能リハビリプリント・知恵の輪・パズル等の知能リハビリ ※カラオケ・手工芸（季節飾り）・外出レク・誕生会等の社会参加とコミュニケーション支援
4月	桜見・神社庁による健康祈願
5月	地震想定避難訓練
6～7月	七夕飾り作り
10月	昼間想定避難訓練
2月	節分の豆まき

4. 収支状況

本年度の収入は、介護保険事業収入 24,271,130 円、受取利息配当金収入 1,372 円、その他の収入 2,600 円、サービス区分間繰入金収入 1,260,000 円、合計 25,535,102 円であった。

支出は、人件費支出 19,597,128 円、事業費支出 3,507,603 円、事務費支出 750,148 円、固定資産取得支出 143,640 円、積立資産支出 93,420 円、拠点区分間繰入金支出 1,419,000 円、合計 25,510,939 円であった。

収支差額 24,163 円を次年度に繰り越すこととなった。

ふくふくこども館

1. 概 要

地域子育て支援拠点施設として、将来を担う子どもたちを多世代で育み、子どもの健全な育成及び子育てをしている家庭の支援を図ることを目的に、平成26年4月1日に事業を開始した。当事業団、株式会社丹青社及びNPO法人下関子ども・子育てネットの3者で共同事業体「下関こども未来創造ネット」を組み、「ともに創り ともに育み ともに育つ」を理念として、施設の管理運営及び様々なイベントを盛り込んだ多彩な事業を展開した。

2. 利用者の状況（平成27年3月31日現在）

(1) 全 体

年間利用者目標数である10万人を7月に達成し、年度末には249,940人の来館があった。

全体のうち、未就学児とその保護者が対象のプレイランドでは165,913名の利用があり、下関市内在住の方が72%、市外在住の方が28%であった。

場 所		人 数
プレイランド	大 人	84,500
	未就学児	74,429
	その他の子ども	6,984
多目的室		10,494
こども一時預かり室		938
交流スペース・クリエイティブランド		72,595
合 計		249,940

(2) こども一時預かり室

こども一時預かりを利用される理由は、買い物が一番多く、次いで通院（見舞いも含む）、母親のリフレッシュ、兄弟児の学校行事参加等の順である。中には母親が仕事復帰に向け、子どもを慣らし保育のために預けるといったケースもあった。

【利用者数】

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	56	50	76	75	105	76	84	77	69	73	76	121	938

【年齢別内訳】

年 齢	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳以上	合計
人 数	131	231	214	162	200	938

【利用時間別内訳】

時 間	1 時間	2 時間	3 時間	4 時間	合計
人 数	393	323	220	2	938

(3) 多目的室

貸室としての利用申請は101件であったが、そのうち減免の対象が41件で、有料での利用は60件であった。利用団体としては、市関係機関・幼保関係・企業・一般の方であり、会議やイベント、遠足の休息場所等に利用された。また、その他に多目的室を使って当館の事業を年間67件展開し、利用の促進に努めた。事業への参加者は6,702人で、内容は講座や親子で参加できる教室、各種イベントなどを開催した。

(4) 相談業務

相談業務の実績は、プレイランドにおける相談員巡回による受付が大半となっている。これは、相談員が遊びに来られる利用者とのコミュニケーションを取っていく中で信頼関係を少しずつ築けたことで、気軽に相談しやすい環境になったからと考えられる。相談者は、母親が大半であり、次いで祖母、父親である。祖母が平日の子育てをサポートしており、孫についての育児方法などの確認が多い。また、未就学児に関する相談だけでなく、家庭内の様々な相談事が持ち込まれている。

【受付相談実績】

相談方法	巡回	個別	電話	メール	勉強会	合計
件 数	503	52	13	9	4	581

相談内容	生活習慣	人間関係	発達	教育関係	育児不安	情報	その他	合計
件 数	113	69	44	20	102	24	209	581

3. 事業の実施状況

(1) 基幹事業

事業計画において53プログラムを予定していたが、予想を上回る来館者があったため、内容の見直しと充実に図りながら実施回数を増やし、利用者の満足度を上げて、リピーターの確保に努めた。

また、年1回の大規模な子育てイベントとして10月に「For Kids ふくふくフェスタ」を開催した。子育て関連団体や市内5大学、ボランティア、近隣商業施設の協力を受け、館全体を利用して様々な催しを行ったことで、地域とのつながりを強めることができた。

【基幹事業実施状況】

(単位：人)

事 業 名		プログラム数	大人	子ども	合 計
遊び体験	クリエイティブプログラム	44	37,074	47,061	84,135
学習事業	アクティブプログラム	3	550	534	1,084

	いのちふれあいプログラム	3	107	108	215
	才能・特技発見プログラム	1	9	10	19
子育て家庭 支援事業	子育て・親育ちプログラム	16	372	366	738
	大規模イベント：ふくふくフェスタ	1	1,145	1,212	2,357
地域活力 増進事業	子育て関連団体サポート	3	380	361	741
	地域交流の促進	1	172	44	216
	ボランティア・サポーターの育成	9	67	65	132
	他機関との連携事業の企画 地域貢献プロジェクト	7	222	148	370
郷土文化伝承	ふるさと下関プログラム	7	284	288	572
利用促進 事業	多彩な行事・イベントの開催	5	680	499	1,179
	子育て世代の利用促進	0	0	0	0
合 計		100	41,062	50,696	91,758

(2) 自主事業

基幹事業に加えて館に賑わいをもたらす行事として、未就学児だけでなく、小学生、子育て中の親や祖父母世代など、対象の幅を広げて事業を展開した。講師を招いての様々な教室では、本格的なものづくりの場を提供することができた。

【自主事業実施状況】

(単位：人)

事業名		プログラム数	大人	子ども	合計
遊び体験 学習事業	本格！ものづくりプログラム	11	179	180	359
	本格！習い事プログラム	3	102	94	196
	おひさまプログラム	1	20	20	40
子育て家庭支 援事業	プレママタイム	1	2	2	4
	ベビータイム	2	80	81	161
	ママタイム	5	43	23	66
	パパタイム	2	66	57	123
地域活力 増進事業	プロフェッショナル連携プログラム	2	26	12	38
	地域子育て力の底上げ	2	106	21	127
郷土文化伝承	歴史伝統プログラム	0	0	0	0
利用推進事業	子育て家庭応援プログラム	5	427	109	536
合 計		34	1,051	599	1,650

4. 収支状況

本年度の収入は、児童福祉事業収入 34,337,885 円、経常経費寄附金収入 200,000 円、受取利息配当金収入 2,077 円、その他の収入 1,459,786 円、合計 35,999,748 円であった。

支出は、人件費支出 14,847,000 円、事業費支出 15,474,215 円、事務費支出 2,590,885 円、拠点区分間繰入金支出 2,144,000 円、合計 35,056,100 円であった。

収支差額 943,648 円を次年度に繰越すこととなった。